社会科学習指導案

日　時　平成 20 年 6 月 17 日
場　所　○○市立○○小学校４年○組
児　童　39 名（男子 16 名　女子 23 名）
授業者
指導者

1　単元名　「くらしの広がり」

2　単元について

(1) 教育内容観
本単元は、社会科学習指導要領の以下の記述と関連している。

(3) 県（都、道、府）内における自分たちの市（区、町、村）の地理的位置を確認し、また、県（都、道、府）全体の地形や主な産業、都市や交通網を調べたり白地図に記入したりなどしてそれらの特色について理解できるようにするとともに、県（都、道、府）内における人々の生活は国内の他地域や外国ともかかわりがあることに気付くようにする。

上記より判断するなら、本単元に関連して押さえなくてはいけない学習内容は、次の 4 つである。

- 県（都・道・府）内における自分たちの市の地理的位置を、その周囲の様子や他の地域との関係で捉えさせること（ただし、これは３年生のときに学習済みである）。
- 自らの住む県（都・道・府）全体の地形やそれに基づく主な産業の布置構成、都市や交通の様子を捉え、場所によって違いがあることを具体的に理解させること。
- 自らの住む県（都・道・府）の特色ある地形や産業、交通等の様子と、自然条件や社会的な条件とが相互に関連していることに気づかせること。
- 地図やグラフなどの各種資料を読み取り、それを用いて土地利用の様子や産業にかかわる人々の生活の特色や相互の関連について考えさせること。

本単元のうちでは、上記四つのうち、３年生で学習している１点目を除いた２～４点目を学習内容とする。

小単元（１）では道内で盛んな、しかも盛んな地域が異なる稲作と酪農を教材としてとりあげる。この二つを対比してとりあげることによって、土地利用は地形という自然条件

によって規定されているばかりではなく、気候という自然条件によっても規定されるという見方を児童に育成できるはずである。

小単元（２）では、苫小牧港と新千歳空港を教材としてとりあげ、船や航空機を利用しやすい地域には会社や工場が増えていくということを学ばせる。これによって小学校３年生のときに学んだ「大きな道路や駅の近くには工場や商業施設ができる。それは～だからだ」という交通と土地利用との関連させた見方をさらに発展させるものとなる。

このような地形や気候などの自然条件と土地利用という観点を身につけることにより、ここで取り上げる地域以外の場合にもこの観点を応用して土地利用がなぜそうなっているのかを説明できるようにしたい。これができてこそ、社会科は暗記教科だという社会一般の見方を打破できるだろう。

小単元（３）では、オホーツク海側のホタテ養殖をとりあげて、人々が工夫と努力によって豊かな暮らしを築いたことを理解させる。

また、地図や白地図などを活用することは小単元（１）・（２）・（３）を通じて行いたい。

(2) 指導の系統

学　年	学ぶ範囲	自然条件	
		地形	気候
３学年	・市	私たちの市の働く人々の工夫と努力 ・高い土地 ・低い土地	・やらない
４学年	・県 ・日本	私たちの道で働く人たちの工夫と努力 ・海の近く ・山の中 ・高原 ・輪中地帯	・あたたかい ・さむい ・雪の多い
５学年	・日本	＜　産　業　学　習　＞ いろいろな産業で働く人たちの工夫と努力 地形・気候と米作り 地形・気候と野菜作り	

本単元は指導の系統で言うと、二つの側面を有する。

一つは、自然条件の「気候」という観点と土地利用のあり方に関連があるという見方を育成することである。一般的には４学年の県の学習は、３年生で学んだ「地形が土地利用に関係している」という見方が「県の場合にも適用できる」ことを学ばせるにとどまる。すなわち、気候という契機を入れて土地利用のあり方を説明できるようにするのは「日本各地の暮らし」単元になって初めて行われるのである。だが、広大な北海道の場合、土地利用のあり方を地形とだけ関連させて学習させるのは無理がある。そこで本単元から気候の要素をとりいれたのである。

今一つは、人々が工夫と努力によって自分たちの生活を高めているという見方を育成することである。５年生の産業学習がこの見方を育成する中核になっている。本単元は、３年生の「市の働く人たちの工夫と努力」を受けて「道内で働く人たちの工夫と努力」を学ぶことになる。米作りや酪農でも工夫や努力を扱うが、小単元（３）を設けてオホーツク沿岸地域のホタテ養殖をとりあげ、海で働く人々の工夫と努力を取り上げる。児童にとっては漁業従事者たちの工夫や努力の方が農業関係の人々のそれよりも理解しやすいであろう。

(３)児童について

本学級の児童は３学年の時に、地形から産業・土地利用のありかたを説明する見方を学んでいる。

本単元を学習するにあたって、自然条件から産業・土地利用のありかたを説明できるかどうかという点で実施した事前調査によると、ほとんどの児童が地形は産業・土地利用に関わっていると説明できたが、未習事項である気候については、それが産業や土地利用のありかたに関わりがあると考えることのできた児童は少なかった。したがって、産業・土地利用のありかたに影響するのは地形だけではなく、気候も関係するという点に気付かせる学習を行う場合、指導上の工夫が必要である。それによって、気候という契機に児童の目を向けさせる必要がある。

働く人々の工夫・努力については、３年生のときに「旭川の家具作り」において主として学んできた。海で働く人々の姿を見たことのない子どもたちだからこそ、ほたて養殖に従事する人々の工夫と努力を教えたい。そしてそうした人々の工夫や努力が自分たちの食生活を豊かなものにしていることに気づかせたい。

(４)指導観

児童に地形と気候という二つの視点を持たせることで、自然条件と土地利用の因果関係が理解できるようになると考えられるようにしたい。

しかし、単に自然条件に規定されるばかりでなく、それを活用して北海道の人々が自らの暮らしを豊かで充実したものにしているという見方も養っていきたい。そのためにホタ

テ養殖をとりあげる。

児童に産業・土地利用を考える時の視点の一つである気候という観点を持たせるためのステップとして、今の段階で気候が産業・土地利用のありかたに関わると考えることのできる児童は少なかったことから、まず稲作と酪農が同じような広くて平らな土地を使っていることに注目させる。次に稲作と酪農はそれぞれどのような地域で、また暖かい所と涼しい所どちらで盛んであるかという点から課題を考えさせ、気候という観点に注目させる。そこから、北海道の農業は、環境や気候といった自然条件を生かして行われていることを理解させる。また、この際に気温と降水量の表・北海道の地形を示した図・北海道各地の夏日の日数を示した図の三種類の資料を使う。農業と土地の自然条件の強い結びつきについて、資料をもとにしながら自分なりに考えることのできるように指導していく必要がある。

ホタテ養殖に取り組んでいる人々に目を向けさせるために、子どもたちが大好きな「回転寿司」を手がかりにしたい。自分の好きなネタの魚や貝が、どこで・どのようにとられているのかに興味をもたせ、ホタテは自然のものではなく養殖されたものであることに気づかせ、一体人々がどのような工夫をして育てているのか、それによって養殖業者のくらしがどれほどゆたかになっていったのかを教えたい。

3　単元の目標と評価基準

(1)北海道について、自然条件・地形・土地利用・産業・交通・そこで働く人々の工夫や努力に興味・関心を持ち、意欲的に調べたり考えたりできるようにする（関心・意欲・態度）

A：学習日記に本単元に関連する記事が３回以上現れた。

B：学習日記に本単元に関連する記事が１回ないし２回現れた。

C：みんなと調べるときにまじめに取り組んでいた。

D：みんなと調べるときに教師や仲間に注意されることが多かった。

(2)産業・土地利用について、地形や気候などの自然条件を関連させながら考えることができる（思考・判断）

A：全ての場合について、つながりをきちんと押さえた予想がノートに書かれていた。

B：二つ以上の場合について、つながりをきちんと押さえたまとめがノートに書かれていた。

C：地形と土地利用についてのみ、つながりをきちんと押さえた予想がノートに書かれていた。

D：つながりをきちんと押さえた予想がノートに書かれていなかった。

(3)一人調べでわかったことをノートにまとめるとき、地図やグラフを効果的に活用してい

た（技能・表現）

A：地図とグラフが効果的に使用されていた。

B：地図あるいはグラフだけが効果的にしようされていた。

C：地図とグラフが使用されてまとめが書かれていたが、硬貨的な使用にはなっていなかった。

D：地図もグラフも使用されていなかった。

(4)北海道の地形や気候などの自然条件と産業・土地利用のありかたの因果関係を理解し、自然条件から産業・土地利用のありかたを説明できる（知識・理解）

A：つながりをきちんと押さえたまとめがノートに書かれており、またテストでもこの点についてはきちんと押さえて８割以上正解していた。

B：つながりをきちんと押さえたまとめがノートに書かれており、またテストでもこの点についてはきちんと押さえて６割以上８割未満、正解していた。

C：つながりをきちんと押さえたまとめがノートに書かれていたが、テストではこの点については正解が４割以上６割未満であった。

D：つながりをきちんと押さえたまとめがノートでも不十分であり、テストでもこの点についてはきちんと押さえて４割以上未満であった。

（５）ホタテ養殖に取り組む人々の工夫や努力としてどのようなことが、なぜ行われているのかを理解する（知識・理解）

…（評価基準については省略）…。

4　指導計画

「くらしの広がり」（17 時間扱い）

○　オリエンテーション　（1 時間）

ねらい：北海道の学習に対する興味・関心をもたせる。

主発問：本州から北海道に来た友だちに、一番おいしい北海道の食べ物をすすめよう。

評　価：（関心・意欲・態度）→学習日記への現われ

○　小単元（１）　いっぱいとれるところを探せ　（５時間）

ねらい①：それぞれの食べ物の道内主産地を調べる。

主発問：自分が勧めた食べ物（こめや魚、ジャガイモ、バター、牛乳など）が北海道のどこでたくさん作られているのか調べてみんなに教えよう。

評　価：（知識・理解）→単元終了後のテストで

ねらい②：なぜ、その地域が主産地になっているのかを地形と気候の二つの観点から説

明できる。

主発問：同じ平らな土地なのに、なぜ旭川の周りではお米が作られ、根室や釧路の方では牧場になっているのだろうか。

評　価：（思考・判断）→社会科ノート（この主発問に対する予想；まとめ）、テストの結果

○　小単元（２）　旭川家具の工場を建てるとき一番いいのはどこだ！？　　（４時間）

ねらい：なぜ、苫小牧港や新千歳空港の周りに工場が多いのかを交通の利便性という観点から説明できる。

主発問①：「君は旭川家具の社長さん。新工場を北海道のどこかに作ろうとしている。候補地として、大きな船が出る苫小牧港のそば・社長さんのふるさとで友達もたくさんいて、原料の木も豊富な旭岳のふもとの温泉街・土地がそれほど高くないけど人がたくさん住んでいる北見の３つがあがっています。どこに新工場を建てますか。」

評　価：（思考・判断）→社会科ノート（この主発問に対する予想；まとめ）

○くらしを高めた人々（ホタテ養殖に取り組む人々）　　（４時間）

省略

○まとめ――わかったことを地図やグラフにまとめよう――　　（３時間）

５　本時

(1)　本時の目標

稲作と酪農を通して、北海道の農業の特色を、自然条件と関連付けて考えることができる。また、ここからその土地の主に気候などの自然条件と、土地利用の因果関係を理解する。

(2)　本時の準備

○　地図帳

○　補助資料（気温と降水量の表・北海道の地形を示した図・北海道の水田の写真・牧場の写真・北海道各地の夏日の日数を示した図）

○　パイナップルの絵

(3)　展開（９０分）

段階 (時配)	主な発問・指示・説明	予想される発言・思考	指導上の留意点（資料）
事象提示 （１０分）	・「今日は北海道の農業を調べるんだったね。 　これは、稲作が行われている水田の写真と、酪農が行われている牧場の写真です。どんなところが同じかな。」 「稲作も酪農もとても広くて平らな土地を使っているね。でも、盛んな地域が違うよね。お米は旭川とか空知、石狩なんかでたくさん作られている。それなのに釧路や根室の平らな地域ではお米が作られていないで牧場になっている。同じ平らな土地なのにだよ。さあ、何でだろう。」 「パイナップルがヒントだ。パイナップルは沖縄の平らな土地で作られているけど、北海道の平らな土地では作られていない。なぜだ」	・平らなところ ・広いところ ・沖縄は北海道よりずうっとあったかい。パイナップルは、あったかいとこが好きなんだ。 ・わかった。お米か牛のどっちかがあったかいところが好きなんだ。 ・釧路とか根室って寒いんじゃないの。それでお米ができな	（北海道の地図） （北海道の水田の写真と、牧場の写真）

	「ほーう。おもしろい。まだ他に面白い答がないかな？」 「おう、すばらしい。これもおもしろいね。他には？」 「なるほど、なるほど。先生、素直だから、みんなが言うと本当かなって思っちゃうんだけど、本当に本当なのかな。先生が持っている資料も使って、みんなが出してくれた考えが正しいかどうか調べてみよう。」 「それでは、今日はこんな勉強でいいかい」	いの。 ・米は水がいっぱいないといけないでしょう。釧路や根室の方には大きな川がないんじゃないの？ ・釧路の方だと牛が暮らしやすいんじゃないの。	・子どもたちが答を出しやすいように認めてやるが、子どもたちのはてなが膨らむように次々と予想を言わせる。
課題設定（２分）	なぜ同じ平らな土地なのに、片方は米作りでもう片方は牧場なの？		
検証に必要な資料の要求（10分）	「まず、ノートに自分の予想を書いてみてください」 「それでは君達の予想が正しいかどうか調べるためにほしい資料を言ってごらん。」	・釧路と旭川とどっちがあったかいかわかる資料。 ・釧路とか根室には本当に大き	○　単元目標（4）の評価を行うところ （北海道各地の夏日の日数を示した図）

	・「はい、はい。それならありますよ。」 ・「ああ、それも大丈夫だ。先生、持っている。」 「残念、先生はそれも持っていた。」	い川がないのかがわかる資料」 ・米は暖かい所と寒い所どっちが好きかわかる資料。	（北海道の大きな川が載った地図）
一人調べ (40分)	これから自分たちの予想が正しいか、先生が用意した資料も使って調べよう。	・児童は課題の調べ学習を始める。	・調べる進度の速い児童に対しては、援助する。 ・休み時間を特に設けないので、トイレに行きたくなったら、教師に断っていくように告げておく。また、休み時間も勉強する代わりに 10 分早く終わらせて、20分休みを取ることを約束しておく。
たしかめ （15分）	「予想は合っていたかな。発表してください。」 「米はどうだったかな。」 「釧路と旭川とどっちがあたたかい？」	・米はあったかいところがすきだった。 ・夏になると暑い日が多いのは旭川の方だった。	

	「温度が足らないとね、花が咲いてもみがならないんだよ。それにね、釧路や根室の方は夏でも寒くってね。畑で野菜を作っても冷たい空気で野菜がやられてしまってかれてしまうこともあるんだ。そうすると畑もやらないで牧場にして草を植えてそれを牛が食べる牧場の方が安全なんだね。」	教師は、児童がどの資料を使って結果を導き出したのか問う。	・子どもたちにわかりやすい説明をする。
まとめ (10分)	今日わかったことを先生が黒板にメモするから、それを元にして自分の言葉でまとめてみよう。 ○米を作っているところは夏日が 40 日以上（旭川は 60 日以上もある） ○稲はあったかいところが好き ○釧路や根室は冷たい空気のために野菜でも枯れてしまうこともある。 ○牧草の方が、冷たい空気に強い。 ○牛も涼しい方が好き。	どこで何が作られているかは、地形だけでなく、気候も大きく関係している。	単元目標（②）の評価を行うところ

（4）板書計画

別紙

別紙（板書計画）